

活動報告

日本語研修コース

深見兼孝

修了者

第60期生名簿（2015年4月～2015年9月）[5名]

氏名	呼び名	国籍	専攻	大学
Saheki Karina	カリナ	ブラジル	生物機能開発学	広島大学
Furtado Pedro Gabriel Fonteles	ペドロ	ブラジル	情報工学	広島大学
Alvino Granados Alex Eduardo	アレックス	ペルー	生物機能開発学	広島大学
Al-Ali Musaddiq Abdil Khaliq	ムサディク	イラク	輸送・環境システム	広島大学
Thodi Martin Mang'anda	マーティン	マラウイ	情報工学	広島大学

第61期生名簿（2015年10月～2016年3月）[10名]

氏名	呼び名	国籍	専攻	大学
Sudirman	スディルマン	インドネシア	英語教育	広島大学
Bautista Russell Vivar	ラッセル	フィリピン	自然環境	広島大学
王霞	オウカ	中国	教育学	広島大学
揚駒	ヨウク	中国	教育社会学	広島大学
Erlangga Hanggara Wisnhu Murti	エルランガ	インドネシア	機械物理学	広島大学
Chalermtrakul Tanawan	タナワン	タイ	機械物理学	広島大学
Govindaraj Gowtham	ゴータム	インド	機械システム工学	広島大学
Lojindarat Supanat	ロジンダラット	タイ	システムサイバネティクス	広島大学
Budiaman Anthony Sugiharta	トニー	インドネシア	機械システム工学	広島大学
Rinaldi Febrigia Ghana	ガーナ	インドネシア	化学工学	広島大学

講師一覧

第60期（2015年4月～2015年9月）

専任 中川正弘 中矢礼美 深見兼孝

非常勤 伊ヶ崎泰枝 後藤美知子 佐藤道雄 松村一徳

第61期（2015年10月～2016年3月）

専任 中川正弘 中矢礼美 深見兼孝

非常勤 伊ヶ崎泰枝 後藤美知子 佐藤道雄 松村一徳

第60期(2015年4月～2015年9月)予定表

	行事／試験等	見学	備考
4/6 - 4/10	4/6 (月) 11:00 オリエンテーション (K308) 4/7 (火) 13:30 開講式 (学生会館レセプションホール)		4/7 (火) 16:20 新入留学生オリエンテーション (総合科学部 K209、K203)
4/13 - 4/17			
4/20 - 4/24		4/24 (金) 広島市	4/24 (金) 17:00 ホストファミリー対面式
4/27 - 5/1			4/29 (水) 昭和の日 (祝日)
5/4 - 5/8			5/3 (日) 憲法記念日 (祝日) 5/4 (月) みどりの日 (祝日) 5/5 (火) こどもの日 (祝日) 5/6 (水) (振替休日)
5/11 - 5/15			
5/18 - 5/22		5/22 (金) 宮島	
5/25 - 5/29			
6/1 - 6/5	6/4 (木) 中間テスト		
6/8 - 6/12			
6/15 - 6/19			
6/22 - 6/26			
6/29 - 7/3			
7/6 - 7/10			
7/13 - 7/17			
7/20 - 7/24		7/24 (金) マツダ	7/20 (月) 海の日 (祝日)
7/27 - 7/31	7/30 (木) 期末テスト		
8/3 - 8/28	夏休み		
9/1 - 9/4	特別講義		
9/7	9/7 (月) 研修成果発表会・修了式		

第 61 期(2015 年 10 月～2016 年 3 月)日本語研修コース予定表

	行事／試験等	見学	備考
10/5- 10/9	10/5 (月) 11:00 オリエンテーション(K308) 10/6 (火) 13:30 開講式 (学士会館 レセプションホール)		10/6 (火) 16:20 新入留学生オリエンテーション (総合科学部 K109)
10/12- 10/16			10/12 (月) 体育の日 (祝日)
10/19 - 10/23			
10/26 - 10/30		10/30 (金) 広島市	10/30 (金) 17:00 ホストファミリー対面式
11/2 - 11/6			11/3 (火) 文化の日 (祝日)
11/9- 11/13			
11/16 - 11/20			
11/23 - 11/27		11/27 (金) 宮島	11/23 (月) 勤労感謝の日
11/30 - 12/4	12/3 (木) 中間テスト		
12/7 - 12/11			
12/14- 12/18			
12/21 - 12/23			12/23 (水) 天皇誕生日 (祝日)
12/24 - 1/7	冬休み		
1/8			
1/11 - 1/15			1/11 (月) 成人の日 (祝日)
1/18 - 1/22		1/22 (金) マツダ	
1/25 - 1/29			
2/1 - 2/5			
2/8 - 2/12			2/11 (木) 建国記念の日 (祝日)
2/15-2/19	2/18 (木) 期末テスト		
2/22-2/26	2/22 (月) -2/26 (金) 特別講義		
2/29-3/1	2/29 (月) 特別講義 3/1 (火) 研修成果発表会・修了式		

日本語教育部門：日本語・日本事情 (2015年4月～2016年3月)

田村泰男

1. 授業科目一覧
・東広島キャンパス

授 業 科 目	開 設 単位数	学期別週授業時数		受講登録者数	
		前 期	後 期	前 期	後 期
総合日本語初級ⅠA	1・1	2	2	24	32
総合日本語初級ⅠB	1・1	2	2	24	26
総合日本語初級ⅠC	1・1	2	2	22	26
総合日本語初級ⅠD	1・1	2	2	21	29
総合日本語初級ⅠE	1・1	2	2		
総合日本語初級ⅡA	1・1	2	2	15	9
総合日本語初級ⅡB	1・1	2	2	12	8
総合日本語初級ⅡC	1・1	2	2	14	13
総合日本語初級ⅡD	1・1	2	2	12	10
総合日本語中級ⅠA	1	2		20	
総合日本語中級ⅠB	1	2		23	
総合日本語中級ⅠC	1	2		20	
総合日本語中級ⅠD	1		2		16
総合日本語中級ⅠE	1		2		12
総合日本語中級ⅠF	1		2		16
総合日本語中級ⅡA	1	2		7	
総合日本語中級ⅡB	1	2		8	
総合日本語中級ⅡC	1	2		8	
総合日本語中級ⅡD	1		2		27

総合日本語中級Ⅱ E	1		2		30
総合日本語中級Ⅱ F	1		2		29
日本の教育と文化 A	1	2		12	
日本の教育と文化 B	1		2		30
日本語聴解特別演習 A	1	2		17	
日本語聴解特別演習 B	1		2		25
日本語分析特別演習 A	1	2		32	
日本語分析特別演習 B	1		2		40
日本語表現特別演習 A	1	2		11	
日本語表現特別演習 B	1		2		25
日本語語彙特別演習 A	1	2		37	
映像日本語特別演習 A	1	2		25	
映像日本語特別演習 B	1		2		19
論文作成法 A	1	2		38	
論文作成法 B	1		2		15
日本の社会・文化 A	1	2		21	
日本の社会・文化 B	1		2		30
日本語・日本文化特別研究Ⅰ A	4		4		10
日本語・日本文化特別研究Ⅰ B	4		4		10
日本語・日本文化特別研究Ⅰ C	4		4		10
日本語・日本文化特別研究Ⅱ A	4	4		13	
日本語・日本文化特別研究Ⅱ B	4	4		13	
日本語・日本文化特別研究Ⅱ C	4	4		13	

・霞キャンパス

授 業 科 目	開 設 単位数	学期別週授業時数		受講登録者数	
		前 期	後 期	前 期	後 期
総合日本語初級ⅠA	1・1	2	2	4	9
総合日本語初級ⅠB	1・1	2	2	5	20
総合日本語初級ⅡA	1・1	2	2	8	7

2. 授業内容

(東広島キャンパス)

・レベル1

授業科目	総合日本語初級ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD
担当教員	石原 淳也・深見 兼孝・堀田 泰司・山中 康子・渡辺 久美
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	<p>第1週－第8週 ひらがな、カタカナと日本語の発音、あいさつ、数詞、名詞文、指示詞、時間表現、自動詞文、移動の動詞、他動詞文、斜格助詞、形容詞、目的語+が、存在表現、数量詞、比較、中間試験</p> <p>第9週－第15週 要求・希望、テ形、許可・禁止、進行、連続した行為、ナイ形、禁止、義務、辞書形、普通形過去、引用、関係節、時を表す従属節、授受動詞、条件節、期末試験</p>
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅰ 本冊」(スリーエーネットワーク)
成績評価	出席・試験・宿題

・レベル2

授業科目	総合日本語初級ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD
担当教員	田村 泰男・中川 正弘・堀田 泰司・下村 真理子
目 標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内 容	<p>第1週－第5週 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞/他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テスト(1)</p> <p>第6週－第10週 時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト(2)</p> <p>第11週－第15週 授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト(3)</p>
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅱ 本冊」(スリーエーネットワーク)
成績評価	出席・試験・宿題

・レベル3

授業科目	総合日本語中級 I A・I B
担当教員	浮田 三郎・渡部 浩見
目 標	中級レベルの長文を読み、内容を理解する能力を身に付ける。今までに学んだ基本的な表現を使って、日本語で議論をしたり自分の意見を表現できるようにする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 本授業では次のトピックを扱う： 音楽の音と効果、いい数字・悪い数字、「おもしろい」日本、くしゃみ、わたしの町、この日に食べなきゃ意味がない！、お相撲さんの世界、第一印象
テキスト	「中級を学ぼう -日本語の文型と表現 5 6」 (スリーエーネットワーク)
成績評価	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級 I C
担当教員	坂田 光美
目 標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内 容	1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。 2) スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 3) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： いただきます、川を渡る、車は左、人は右？、千羽鶴 合格は誰のおかげ？、時差ぼけ、小判がこわい、 道路からメロディー、カラオケ発明者にノーベル賞？、 砂糖の消費量、盆栽、駅伝、波力発電、河童、 「もったいない」を国際語に！、思いがけない援助、 新幹線の顔、ビルの地下の野菜畑、イルカは頭がいい？、 留学生文学賞、菜の花プロジェクト、今日は何色のスーツですか 缶コーヒーの値段、あがらないためには、国際宇宙ステーション
テキスト	「新・毎日の聞き取り 50日 vol.2」 (凡人社)
成績評価	出席状況と試験および宿題による評価。

授業科目	総合日本語中級 I D・I E
担当教員	浮田 三郎・渡部 浩見
目 標	中級レベルの長い文章を読み、それが何を伝えようとしたものであるかを確実に読みとる読解力を身に付け、さらにその内容を的確に言語表現できる能力を養うことを目標とする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語2ndステップ」(白帝社)
成績評価	出席・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級 I F
担当教員	下村 真理子
目 標	音声教材を用いて、一定の長さの説明文や解説文の聞き取り能力を養うとともに総合的な日本語能力を高める。
内 容	1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。 2) スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 3) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： もしもし、旗のデザイン、海からの便り、カラスのカー子ちゃん たためるピアノ、日本人と果物、待つ時間・待たせる時間、震度3、 世界の人口、牛丼の作り方、ドライアイ、 日本の地方都市、横断歩道、弁当の日、コンビニ図書館、 右回りの時計、目にやさしい色、上手に泣いて、ストレス解消、 阿波踊り、富士山が見えるところ、アニメ文化の輸出、 十二支の話、東京を回る山手線、どんな結婚披露宴がいい？、 通話をやめた若者
テキスト	「新・毎日の聞き取り50日 vol.1」(凡人社)
成績評価	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

・レベル4

授業科目	総合日本語中級ⅡA・ⅡB
担当教員	田村 泰男・坂田 光美
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習する。 授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～という、～に基づく～、～と同時に、～による、～際、～にかけて、～さえ、～なんて、こと、～を問わず、～をめぐって、～ところ、～向き／～向け、～における、～上、～うえで、～なり、VたN、～という点、～にかかわる、～をもたらす、～に対して／～にとって、～ばかり／～だけ、～を通して／～を通じて、～ぶり、～とはいえ、～当たり、たとえ～も、～やら～やら、～に関する～、～限り、～がち、～っぱなし、～以上、～抜き～、～おかげで／～せいで、～にもかかわらず、～につれて、～に例える、～に違いない、～得ない／～得る、～っぽい、～にしても、～つつ、～めく、～かのように、～結果、～に比べて、もの
テキスト	「中級を学ぼう 日本語の文型と表現82」(スリーエーネットワーク)
成績評価	出席、試験、宿題

授業科目	総合日本語中級ⅡC
担当教員	山中 康子
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	本授業では、次のようなトピックスを扱う： 回転寿司、郵便局からのお知らせ、名前のない手紙、成績と朝ごはん、地震に強いビル、いちばん上の子、結婚相手、太鼓のひびき、睡眠不足、お菓子のおまけ、進化するロボット、人類はメン類、日本を知らない日本人、よみがえった日本の技術 若い登山家、変化する就職活動、三年寝太郎、屋上の緑化、英語力や資格は必要ですか、燃料電池自動車
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 下」(凡人社)
成績評価	試験、出席、課題

授業科目	総合日本語中級ⅡD・ⅡE
担当教員	田村 泰男・坂田 光美
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習し、部分作文によって新出項目の定着を図る。授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～ながら、～まい、～わけだ、～でも、～ほど、～なら、～ても、～てくる、～てしまう、～ながら、～よう、～がる、～ことにする／なる、～とか～とか、～させる、～てたまらない、～たばかり、～ものだ、～てみる、～中、～し～し、～かもしれません、～つもり、～くらい、～なければならぬ、～まま、～ようとしぬ、～たものだ、～から～にかけて、～ものの、～やら～やら、～につれて、～ば～ほど、～として、～によって、～ところ、～にとって、～はずだ、～さえ、～うちに、～はずがない
テキスト	「テーマ別中級から学ぶ日本語」 (研究社)
成績評価	出席、試験、宿題

授業科目	総合日本語中級ⅡF
担当教員	山中 康子
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	教材を聴く前に先ず、 (1)イラストによって、教材の内容を概観する。 (2)関連語彙や、背景となる知識を導入する。 (3)教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 教材を聴いた後 (4)タスクに答える。 (5)話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。 (6)語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。 (7)音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 上」 (凡人社)
成績評価	試験、出席、課題

授業科目	日本の教育と文化A
担当教員	中矢 礼美
目 標	日本社会と文化を深く理解することを目的に、日本における子育て・学校教育・社会教育の歴史と現状から、日本社会の発展と課題、文化に与える影響を紹介し、学生は比較考察や議論を行う。
内 容	第1回 オリエンテーション、 第2回 日本の子育て文化 第3回 日本の子育て政策と現状 第4回 日本の学校教育の成立と発展 第5回 日本の学校教育の目的：「生きる力」の教育(総合的な学習) 第6回 「生きる力」の教育(学校給食と食育) 第7回 学校の規律文化 第8回 愛国心教育 第9回 学校におけるいじめ問題と対応 第10回 「生きる力」の教育(学校給食と食育) 第11回 日本におけるメディア教育 第12回 日本におけるキャリア教育 第13回 日本における平和教育 第14回 日本の社会教育(公民館・図書館) 第15回 学生グループ討議
テキスト	適宜配布する。
成績評価	授業態度、毎回のコメント用紙、レポート

授業科目	日本の教育と文化B
担当教員	中矢 礼美
目 標	日本社会と文化を深く理解することを目的に、日本における子育て・学校教育・社会教育の歴史と現状から、日本社会の発展と課題、文化に与える影響を紹介し、学生は比較考察や議論を行う。
内 容	第1回 オリエンテーション(社会学的な見方) 第2回～第5回 日本人のイニシエーション ー妊娠・出産・産後、子ども期、青年期、成人期ー 第6回～第8回 日本の学校におけるキャリア教育 ー自己発見、職業意識、実習・進路選択ー 第9回～第10回 日本の学校における伝統文化の継承 第11回 日本の学校における歴史教育 第12回 日本の学校における国際理解教育 第13回 日本の学校における言語教育 第14回～第15回 学生グループ討議・発表
テキスト	事前に資料を配布します。
成績評価	授業態度、コメント用紙、レポート

・レベル5

授業科目	日本語聴解特別演習A
担当教員	深見 兼孝
目 標	講演の日本語の内容を聞き取る能力を身につける。
内 容	第1回 導入。寝ているとき 第2回～第4回 昨日の私と今日の私 第5回～第6回 りんご 第7回 情報化社会 第8回 個性的であること 第9回～第10回 話せばわかる 第11回 伝統芸能 第12回～第14回 子育て 第15回 地方と都会 各回とも、語句のチェック、聞き取り練習、スクリプトによる確認の順で授業を進める。
テキスト	CD『養老孟司が語る「わかる」ということ』
成績評価	試験、出席、授業態度などを総合的に評価する。

授業科目	日本語聴解特別演習B
担当教員	深見 兼孝
目 標	ラジオドラマの日本語を聞き取る力を養成する。
内 容	第1回～第4回 出会い 第5回～第7回 江夏 第8回～第10回 野球場 第11回 再会 第12回～第14回 プレゼント 第15回 エピローグ 各回とも、語句のチェック、聞き取り練習、スクリプトによる確認
テキスト	『ラジオドラマCD博士の愛した数式』
成績評価	試験、出席、授業態度などを総合的に評価する。

授業科目	日本語分析特別演習A
担当教員	中川 正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらおう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。 前期は日本語への翻訳、要約を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価	提出作文、テスト

授業科目	日本語分析特別演習B
担当教員	中川 正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらおう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。 後期は報告文、説明文を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価	提出作文、テスト

授業科目	日本語表現特別演習A
担当教員	浮田 三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。 テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 諺の表現法 2. 親と子 3. 夫婦 4. 恋愛 5. 油断と用心 6. 欲 7. 酒 8. 友 9. 秘密
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	日本語表現特別演習B
担当教員	浮田 三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 睡眠 2. 病気 3. 生死 4. 季節 5. 天候 6. 学者 7. 教育 8. 義理 9. 動物と比喩
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	日本語語彙特別演習 A
担当教員	田村 泰男
目 標	常用漢字に採択されている漢字の訓読みや慣用句、擬音語・擬態語を学習することによって、より自然な日本語表現能力の習得を目指す。
内 容	1. 漢字の訓読み 2. 同訓異字 3. 各種比喩表現 4. 身体語彙を使った慣用句 5. 動植物の語彙を使った慣用句 6. 擬音語・擬態語
テキスト	プリントを配布する。
成績評価	テスト、出席、宿題

授業科目	日本語語彙特別演習 B
担当教員	田村 泰男
目 標	慣用的な読み方をする漢字や類義語、接頭辞・接尾辞などを学習することによって、日本語での表現能力を高めるとともに、各種類意表現のもつ意味上の微妙な違いについての理解をはかる。
内 容	1. 特別な読み方をする漢字 2. 送り仮名によって読み方の違う漢字 3. 読み方が二通りある漢字熟語 4. 国字 5. 疊語 6. 類義語・類意表現 7. 若者語 8. 外来語 9. 接頭辞・接尾辞
テキスト	プリントを配布する。
成績評価	テスト、出席、宿題

授業科目	映像日本語特別演習A
担当教員	石原 淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと、2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと、3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること、4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	第1週-第9週 「金融腐食列島」を最後まで見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。 第10週-第15週 「うる星やつら」を見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価	出席・授業態度・レポート

授業科目	映像日本語特別演習B
担当教員	石原 淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、 1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと 2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと 3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること 4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	映画・アニメーションを見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価	出席・授業態度・レポート

授業科目	論文作成法A
担当教員	中矢 礼美
目 標	大学の講義を受講したり、研究活動を行ったりするのに必要な高度な日本語の運用能力を身につける。学術的なテーマについて、日本語による討議、発表、レポート・論文作成ができる能力を育成する。
内 容	第1回 レポートの文体 第2回 課題の提示 第3回 目的の提示 第4回 定義と分類 第5回 図表の提示 第6回 変化の形容 第7回 対比と比較 第8回 原因の考察 第9回 列挙 第10回 引用 第11回 同意と反論 第12回 帰結 第13回 結論の提示 第14回 文型・表現 第15回 日本語論文モデルの購読・解説
テキスト	『留学生の日本語④論文作成編』（アルク）
成績評価	授業態度、試験結果

授業科目	論文作成法B
担当教員	中矢 礼美
目 標	大学の講義を受講したり、研究活動を行ったりするのに必要な高度な日本語の運用能力を身につける。学術的なテーマについて、日本語による討議、発表、レポート・論文作成ができる能力を育成する。
内 容	第1回 レポートの文体 第2回 課題の提示 第3回 目的の提示 第4回 定義と分類 第5回 図表の提示 第6回 変化の形容 第7回 対比と比較 第8回 原因の考察 第9回 列挙 第10回 引用 第11回 同意と反論 第12回 帰結 第13回 結論の提示 第14回 文型・表現 第15回 日本語論文モデルの購読・解説
テキスト	浜田麻里（他）『論文ワークブック』くろしお出版
成績評価	授業態度、試験結果

・日本事情

授業科目	日本の社会・文化A
担当教員	中矢 礼美
目 標	日本社会と文化を深く理解することを目的に、日本の社会と文化にみられる特徴的な現象について学生グループで資料検索、発表準備を行う。授業では、発表および討議を行い、不足データや社会学的な見方でのフォローアップを行い、学生はそれをもとに世界的な現象や自国の社会文化との比較考察により日本理解を深める。
内 容	第1回 オリエンテーション 第2回 日本の社会と文化グループつくりと研究テーマの相談 第3回～第14回 学生グループ発表・討議、フォローアップ（講義） 第15回 日本の社会と文化Aの振り返り
テキスト	参考書は、適宜紹介する。
成績評価	出席、コメント用紙における記述、議論における態度、最終試験20%。さまざまな情報を多角的・複眼的に分析し、議論し、書くことができることを到達目標として、総合的に評価します。

授業科目	日本の社会・文化B
担当教員	中矢 礼美
目 標	日本社会と文化を深く理解することを目的に、日本の社会と文化にみられる特徴的な現象を取り上げて紹介し、学生はそれをもとに世界的な現象や自国の社会文化との比較考察や議論を行う。
内 容	第1回 オリエンテーション（社会学的な見方） 第2回～第8回 日本人の意識変化 —家族観、男女の役割、家庭と職業、政治意識、 権利意識と教育の関係、宗教意識と教育の関係、経済— 第9回 震災後の意識の変化 第10回 日本のメディアと社会 第11回 日本のメディアと国際理解 第12回 観光人類学①（日本の村おこし） 第13回 観光人類学②（日本の観光地の見方） 第14回～第15回 学生グループ討議・発表
テキスト	参考書は、適宜紹介する。
成績評価	コメント用紙、学生討議態度

・ 特定研究

授業科目	日本語・日本文化特別研究Ⅰ
担当教員	中川 正弘・田村 泰男・石原 淳也
目 標	一連の特別講義、および見学・実習から、高度な日本語の知識や運用能力を身に付け、日本および広島周辺の社会・文化についての理解を深める。
内 容	日本語・日本文化研修プログラムの一環として、日本語・日本文化に関する講義、日本および広島周辺地域における社会、産業、文化を理解するための実地研修ならびに研究指導を行なう。 オリエンテーション、日本語・日本文化特別講義Ⅰ～Ⅵ、 地域研修Ⅰ～Ⅵ、研修レポート構想発表
テキスト	必要に応じてプリントを配布。
成績評価	出席・レポート・宿題

授業科目	日本語・日本文化特別研究Ⅱ
担当教員	中川 正弘・田村 泰男・石原 淳也
目 標	一連の特別講義、および見学・実習から、高度な日本語の知識や運用能力を身に付け、日本および広島周辺の社会・文化についての理解を深める。
内 容	日本語・日本文化研修プログラムの一環として、日本語・日本文化に関する講義、日本および広島周辺地域における社会、産業、文化を理解するための実地研修ならびに研究指導を行なう。 オリエンテーション 研修レポート構想発表 日本語・日本文化特別講義Ⅶ～Ⅻ 地域研修Ⅶ～Ⅻ 研修レポート要旨発表
テキスト	必要に応じてプリントを配布。
成績評価	出席・レポート・宿題

(霞キャンパス)

・レベル1

授業科目	総合日本語初級ⅠA・ⅠB
担当教員	山中 康子・渡部 浩見
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	ガイダンス、ひらがな、毎日の挨拶、ひらかな練習、自己紹介、カタカナ、疑問表現、かな練習、提示の表現、目的語、日常活動の表現、時間表現、行動予定の表現、完了時制1)、移動の動詞、時の表現、勧誘の動詞、存在の動詞、位置の表現、目的の表現、授受の表現、形容詞、完了時制2)、希望の表現、好悪・程度の表現、比較・最上級、期末試験
テキスト	「Basic Japanese for Students はかせⅠ」(スリーエーネットワーク)
成績評価	出席・試験・宿題

・レベル2

授業科目	総合日本語初級ⅡA
担当教員	渡部 浩見
目 標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内 容	ガイダンス、レベルチェック、初級Ⅰの復習、理由の表現、丁寧表現、助数詞、依頼表現、継起的動作、時間・期間の表現、進行中の動作、習慣・家族について話す、許可・禁止の表現、動詞の否定形、経験の表現、助言・提案の表現、スケジュールをメモする、動詞の辞書形、可能表現、趣味を語る、名詞句、意見を述べる、伝言を伝える、普通体の使い方、同時制の従属節、条件・譲歩の従属節、話し言葉の文体、状態の変化、お礼の手紙を書く、期末試験
テキスト	「Basic Japanese for Students はかせⅡ」(スリーエーネットワーク)
成績評価	出席・試験

日本語教育部門：留学生関係科目 (2015年4月～2016年3月)

田村泰男

1. 授業科目一覧
・東広島キャンパス

授 業 科 目	開 設 単位数	学期別週授業時数		受講登録者数	
		前 期	後 期	前 期	後 期
Elementary Japanese I A	2		2		8
Elementary Japanese I B	2		2		11
Elementary Japanese I C	2		2		11
Elementary Japanese I D	2		2		8
Elementary Japanese I E	2		2		
Elementary Japanese II A	2・2	2	2	4	6
Elementary Japanese II B	2・2	2	2	4	6
Elementary Japanese II C	2・2	2	2	4	7
Intermediate Japanese I A	2		2		15
Intermediate Japanese I B	2		2		15
Intermediate Japanese I C	2		2		14
Intermediate Japanese I D	2	2		19	
Intermediate Japanese I E	2	2		19	
Intermediate Japanese I F	2	2		19	
Intermediate Japanese II A	2		2		12
Intermediate Japanese II B	2		2		13
Intermediate Japanese II C	2		2		10
Intermediate Japanese II E	2	2		20	
Intermediate Japanese II F	2	2		9	

Japanese Education and Culture A	2	2		7	
Japanese Education and Culture B	2		2		7
Advanced Japanese A (Listening)	2	2		6	
Advanced Japanese B (Listening)	2		2		5
Advanced Japanese A (Analysis)	2	2		9	
Advanced Japanese B (Analysis)	2		2		6
Advanced Japanese A (Expression)	2	2		12	
Advanced Japanese B (Expression)	2		2		3
Advanced Japanese A (Lexical)	2	2		7	
Advanced Japanese B (Lexical)	2		2		8
Advanced Japanese A (Cinema)	2	2		4	
Advanced Japanese B (Cinema)	2		2		3
Academic Writing A	2	2		9	
Academic Writing B	2		2		6
Japanese Society and Culture A	2	2		11	
Japanese Society and Culture B	2		2		5

2. 授業内容

(東広島キャンパス)

・レベル1

授業科目	Elementary Japanese I A・I B・I C・I D
担当教員	石原 淳也・深見 兼孝・堀田 泰司・山中 康子・渡辺 久美
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	第1週－第8週 ひらがな、カタカナと日本語の発音、あいさつ、数詞、名詞文、指示詞、時間表現、自動詞文、移動の動詞、他動詞文、斜格助詞、形容詞、目的語+が、存在表現、数量詞、比較、中間試験 第9週－第15週 要求・希望、テ形、許可・禁止、進行、連続した行為、ナイ形、禁止、義務、辞書形、普通形過去、引用、関係節、時を表す従属節、授受動詞、条件節、期末試験
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅰ 本冊」(スリーエーネットワーク)
成績評価	出席・試験・宿題

・レベル2

授業科目	Elementary Japanese II A・II B・II C
担当教員	恒松 直美
目 標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内 容	第1週－第5週 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞/他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テスト(1) 第6週－第10週 時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト(2) 第11週－第15週 授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト(3)
テキスト	「みんなの日本語初級Ⅱ 本冊」(スリーエーネットワーク)
成績評価	出席・小テスト・宿題・中間期末試験

・レベル3

授業科目	Intermediate Japanese I A・I B
担当教員	石原 淳也
目 標	中級レベルの長い文章を読み、それが何を伝えようとしたものであるかを確実に読みとる読解力を身に付け、さらにその内容を的確に言語表現できる能力を養うことを目標とする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語2ndステップ」(白帝社)
成績評価	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese I C
担当教員	下村 真理子
目 標	音声教材を用いて、一定の長さの説明文や解説文の聞き取り能力を養うとともに総合的な日本語能力を高める。
内 容	1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。 2) スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 3) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： もしもし、旗のデザイン、海からの便り、カラスのカー子ちゃん たためるピアノ、日本人と果物、待つ時間・待たせる時間、震度3、 世界の人口、牛丼の作り方、ドライアイ、日本の地方都市、横断歩道、 弁当の日、コンビニ図書館、右回りの時計、目にやさしい色、 上手に泣いて、ストレス解消、阿波踊り、富士山が見えるところ、 アニメ文化の輸出、十二支の話、東京を回る山手線、どんな結婚披露宴がいい？、通話をやめた若者
テキスト	「新・毎日の聞き取り50日 vol.1」(凡人社)
成績評価	出席状況と平常点、および期末試験による総合評価。

授業科目	Intermediate Japanese I D・I E
担当教員	石原 淳也
目 標	中級レベルの長文を読み、内容を理解する能力を身に付ける。今までに学んだ基本的な表現を使って、日本語で議論をしたり自分の意見を表現できるようにする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	「日本語2ndステップ」(白帝社)
成績評価	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese I F
担当教員	下村 真理子
目 標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内 容	1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。 2) スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 3) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： いただきます、川を渡る、車は左、人は右？、千羽鶴、合格は誰のおかげ？、時差ぼけ、小判がこわい、道路からメロディー、カラオケ発明者にノーベル賞？、砂糖の消費量、盆栽、駅伝、波力発電、河童、「もったいない」を国際語に！、思いがけない援助、新幹線の顔、ビルの地下の野菜畑、イルカは頭がいい？、留学生文学賞、菜の花プロジェクト、今日は何色のスーツですか、缶コーヒーの値段、あがらないためには、国際宇宙ステーション
テキスト	「新・毎日の聞き取り50日 vol.2」(凡人社)
成績評価	出席と試験および宿題による評価。

・レベル4

授業科目	Intermediate Japanese II A・II B
担当教員	田村 泰男
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習し、部分作文によって新出項目の定着を図る。授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～ながら、～まい、～わけだ、～でも、～ほど、～なら、～ても、～てくる、～てしまう、～ながら、～よう、～がる、～ことにする／なる、～とか～とか、～させる、～てたまらない、～たばかり、～ものだ、～てみる、～中、～し～し、～かもしれません、～つもり、～くらい、～なければならない、～まま、～ようとしな、～たものだ、～から～にかけて、～ものの、～やら～やら、～につれて、～ば～ほど、～として、～によって、～ところ、～にとって、～はずだ、～さえ、～うちに、～はずがない
テキスト	「テーマ別中級から学ぶ日本語」 (研究社)
成績評価	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese II C
担当教員	坂田 光美
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	教材を聴く前にまず、 (1) イラストによって、教材の内容を概観する。 (2) 関連語彙や、背景となる知識を導入する。 (3) 教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 教材を聴いた後 (4) タスクに答える。 (5) 話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。 (6) 語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。 (7) 音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 上」 (凡人社)
成績評価	試験、出席、課題

授業科目	Intermediate Japanese II D・II E
担当教員	田村 泰男
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	<p>トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習する。</p> <p>授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。</p> <p>～という、～に基づく～、～と同時に、～による、～際、～にかけて、～さえ、～なんて、こと、～を問わず、～をめぐって、～ところ、～向き、～向け、～における、～上、～うえで、～なり、V たN、～という点、～にかかわる、～をもたらす、～に対して／～にとって、～ばかり／～だけ、～を通して／～を通じて、～ぶり、～とはいえ、～当たり、たとえ～も、～やら～やら、～に関する～、～限り、～がち、～っぱなし、～以上、～抜き～、～おかげで／～せいで、～にもかかわらず、～につれて、～に例える、～に違いない、～得ない／～得る、～っぽい、～にしても、～つつ、～めく、～かのように、～結果、～に比べて、もの</p>
テキスト	「中級を学ぼう 日本語の文型と表現 82」 (スリーエーネットワーク)
成績評価	出席・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese II F
担当教員	坂田 光美
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	<p>教材を聴く前に先ず、</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) イラストによって、教材の内容を概観する。 (2) 関連語彙や、背景となる知識を導入する。 (3) 教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 <p>教材を聴いた後</p> <ol style="list-style-type: none"> (4) タスクに答える。 (5) 話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。 (6) 語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。 (7) 音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	「毎日の聞き取りplus40 下」 (凡人社)
成績評価	中間試験、期末試験、及び出席状況を考慮して評価する。

授業科目	Japanese Education and Culture A
担当教員	中矢 礼美
目 標	日本社会と文化を深く理解することを目的に、日本の社会と文化にみられる特徴的な現象について学生グループで資料検索、発表準備を行う。授業では、発表および討議を行い、不足データや社会学的な見方でのフォローアップを行い、学生はそれをもとに世界的な現象や自国の社会文化との比較考察により日本理解を深める。
内 容	第1回 オリエンテーション 第2回 日本の社会と文化グループづくりと研究テーマの相談 第3回～第14回 学生グループ発表・討議、フォローアップ（講義） 第15回 日本の社会と文化Aの振り返り
テキスト	参考書は、適宜紹介する。
成績評価	出席、コメント用紙における記述、議論における態度、最終試験20%。 さまざまな情報を多角的・複眼的に分析し、議論し、書くことができることを到達目標として、総合的に評価します。

授業科目	Japanese Education and Culture B
担当教員	中矢 礼美
目 標	日本社会と文化を深く理解することを目的に、日本の社会と文化にみられる特徴的な現象を取り上げて紹介し、学生はそれをもとに世界的な現象や自国の社会文化との比較考察や議論を行う。
内 容	第1回 オリエンテーション（社会学的な見方） 第2回～第8回 日本人の意識変化 — 家族観、男女の役割、家庭と職業、政治意識、 権利意識と教育の関係、宗教意識と教育の関係、経済— 第9回 震災後の意識の変化 第10回 日本のメディアと社会 第11回 日本のメディアと国際理解 第12回 観光人類学①（日本の村おこし） 第13回 観光人類学②（日本の観光地の見方） 第14回～第15回 学生グループ討議・発表
テキスト	参考書は、適宜紹介する。
成績評価	コメント用紙、学生討議態度

・レベル5

授業科目	Advanced Japanese A (Listening)
担当教員	深見 兼孝
目 標	講演の日本語の内容を聞き取る能力を身につける。
内 容	第1回 導入。寝ているとき 第2回～第4回 昨日の私と今日の私 第5回～第6回 りんご 第7回 情報化社会 第8回 個性的であること 第9回～第10回 話せばわかる 第11回 伝統芸能 第12回～第14回 子育て 第15回 地方と都会 各回とも、語句のチェック、聞き取り練習、スクリプトによる確認の順で授業を進める。
テキスト	CD『養老孟司が語る「わかる」ということ』
成績評価	試験、出席、授業態度などを総合的に評価する。

授業科目	Advanced Japanese B (Listening)
担当教員	深見 兼孝
目 標	ラジオドラマの日本語を聞き取る力を養成する。
内 容	第1回～第4回 出会い 第5回～第7回 江夏 第8回～第10回 野球場 第11回 再会 第12回～第14回 プレゼント 第15回 エピローグ 各回とも、語句のチェック、聞き取り練習、スクリプトによる確認の順で授業を進める。
テキスト	『ラジオドラマCD博士の愛した数式』
成績評価	試験、出席、授業態度などを総合的に評価する。

授業科目	Advanced Japanese A (Analysis)
担当教員	中川 正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらおう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。 前期は日本語への翻訳、要約を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価	提出作文、テスト

授業科目	Advanced Japanese B (Analysis)
担当教員	中川 正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらおう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。 後期は報告文、説明文を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価	提出作文、テスト

授業科目	Advanced Japanese A (Expression)
担当教員	浮田 三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。 テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 諺の表現法 2. 親と子 3. 夫婦 4. 恋愛 5. 油断と用心 6. 欲 7. 酒 8. 友 9. 秘密
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	Advanced Japanese B (Expression)
担当教員	浮田 三郎
目 標	日本の諺を教材にして、時には世界各国の諺と対照比較し、日本語的な表現法、比喩表現の面白さ、日本的な考え方、日本の文化や風土などの理解を目指す。
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、留学生達の意見を発表してもらい、ディスカッションする。日本語的な表現法を学習し、各々の諺が持っているテーマや特徴を、簡単なクイズ形式の設問を用いて、考えてみる機会を与える。テーマ別には、以下に掲げる通りである。 1. 睡眠 2. 病気 3. 生死 4. 季節 5. 天候 6. 学者 7. 教育 8. 義理 9. 動物と比喩
テキスト	自主教材、金子武雄『日本の諺』（1982年）等
成績評価	授業への出席状況とレポートによって評価する。

授業科目	Advanced Japanese A (Lexical)
担当教員	田村 泰男
目 標	常用漢字に採択されている漢字の訓読みや慣用句、擬音語・擬態語を学習することによって、より自然な日本語表現能力の習得を目指す。
内 容	1. 漢字の訓読み 2. 同訓異字 3. 各種比喩表現 4. 身体語彙を使った慣用句 5. 動植物の語彙を使った慣用句 6. 擬音語・擬態語
テキスト	プリントを配布する。
成績評価	テスト、出席、宿題

授業科目	Advanced Japanese B (Lexical)
担当教員	田村 泰男
目 標	慣用的な読み方をする漢字や類義語、接頭辞・接尾辞などを学習することによって、日本語での表現能力を高めるとともに、各種類意表現のもつ意味上の微妙な違いについての理解をはかる。
内 容	1. 特別な読み方をする漢字 2. 送り仮名によって読み方の違う漢字 3. 読み方が二通りある漢字熟語 4. 国字 5. 疊語 6. 類義語・類意表現 7. 若者語 8. 外来語 9. 接頭辞・接尾辞
テキスト	プリントを配布する。
成績評価	テスト、出席、宿題

授業科目	Advanced Japanese A (Cinema)
担当教員	石原 淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと、2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと、3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること、4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	第1週-第9週 「金融腐食列島」を最後まで見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。 第10週-第15週 「うる星やつら」を見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価	出席・授業態度・レポート

授業科目	Advanced Japanese B (Cinema)
担当教員	石原 淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、 1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと 2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと 3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること 4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	映画・アニメーションを見た後、もう一度最初から少しずつ音声、彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価	出席・授業態度・レポート

授業科目	Academic Writing A
担当教員	中矢 礼美
目 標	大学の講義を受講したり、研究活動を行ったりするのに必要な高度な日本語の運用能力を身につける。学術的なテーマについて、日本語による討議、発表、レポート・論文作成ができる能力を育成する。
内 容	第1回 レポートの文体 第2回 課題の提示 第3回 目的の提示 第4回 定義と分類 第5回 図表の提示 第6回 変化の形容 第7回 対比と比較 第8回 原因の考察 第9回 列挙 第10回 引用 第11回 同意と反論 第12回 帰結 第13回 結論の提示 第14回 文型・表現 第15回 日本語論文モデルの購読・解説
テキスト	『留学生の日本語④論文作成編』
成績評価	授業態度、試験結果

授業科目	Academic Writing B
担当教員	中矢 礼美
目 標	大学の講義を受講したり、研究活動を行ったりするのに必要な高度な日本語の運用能力を身につける。学術的なテーマについて、日本語による討議、発表、レポート・論文作成ができる能力を育成する。
内 容	第1回 レポートの文体 第2回 課題の提示 第3回 目的の提示 第4回 定義と分類 第5回 図表の提示 第6回 変化の形容 第7回 対比と比較 第8回 原因の考察 第9回 列挙 第10回 引用 第11回 同意と反論 第12回 帰結 第13回 結論の提示 第14回 文型・表現 第15回 日本語論文モデルの購読・解説
テキスト	浜田麻里（他）『論文ワークブック』くろしお出版
成績評価	授業態度、試験結果

・日本事情

授業科目	Japanese Society and Culture A
担当教員	中矢 礼美
目 標	日本社会と文化を深く理解することを目的に、日本の社会と文化にみられる特徴的な現象について学生グループで資料検索、発表準備を行う。授業では、発表および討議を行い、不足データや社会学的な見方でのフォローアップを行い、学生はそれをもとに世界的な現象や自国の社会文化との比較考察により日本理解を深める。
内 容	第1回 オリエンテーション 第2回 日本の社会と文化グループつくりと研究テーマの相談 第3回～第14回 学生グループ発表・討議、フォローアップ（講義） 第15回 日本の社会と文化Aの振り返り
テキスト	参考書は、適宜紹介する。
成績評価	出席、コメント用紙における記述、議論における態度、最終試験20%。さまざまな情報を多角的・複眼的に分析し、議論し、書くことができることを到達目標として、総合的に評価します。

授業科目	Japanese Society and Culture B
担当教員	中矢 礼美
目 標	日本社会と文化を深く理解することを目的に、日本の社会と文化にみられる特徴的な現象を取り上げて紹介し、学生はそれをもとに世界的な現象や自国の社会文化との比較考察や議論を行う。
内 容	第1回 オリエンテーション（社会学的な見方） 第2回～第8回 日本人の意識変化 —家族観、男女の役割、家庭と職業、政治意識、 権利意識と教育の関係、宗教意識と教育の関係、経済— 第9回 震災後の意識の変化 第10回 日本のメディアと社会 第11回 日本のメディアと国際理解 第12回 観光人類学①（日本の村おこし） 第13回 観光人類学②（日本の観光地の見方） 第14回～第15回 学生グループ討議・発表
テキスト	参考書は、適宜紹介する。
成績評価	コメント用紙、学生討議態度

第30期（2014 - 2015） 日本語・日本文化研修プログラム

石原淳也

<プログラム概要>

本プログラムは、本国際センター（2010年に旧留学生センターから改組）で受け入れる大使館推薦による「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を中心に、部局間協定に基づき教育学部で受け入れられている「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を対象に加え、国際センターの四人の教員からなる「日本語・日本文化研修プログラム実施委員会」により運営されており、(1) 全学の留学生向けの「日本語・日本事情」で開設されているクラスから選択履修する「日本語研修」、(2) 学内、学外の講師による特別講義および文化施設・文化財等の見学などからなる「日本語・日本文化特別研究 I, II」、そして(3) 指導教員のもとでの「個別指導および課題研究」の三つの内容により構成されている。

研修生は「個別指導および課題研究」での研究経過を「日本語・日本文化特別研究 I, II」の時間中に構想発表および中間発表として発表するとともに、修了式の前に行われる研修成果発表会においてその研究の成果を発表し、指導教員と国際センターにレポートを提出する。国際センターでは毎年これらをまとめて研修レポート集として刊行している。

<受け入れ学生の概要>

第30期は国際センター受入のインド1名、ベトナム2名、インドネシア2名、スリランカ、セルビア、チェコ、ハンガリーからの学生それぞれ1名、部局間協定に基づく文学部受け入れのインドネシアからの学生が1名、総合科学部受け入れの中国からの学生が1名の計13名でプログラムを実施した。

<特別講義等>

2014 年度（第 30 期）実施した日本語・日本文化特別研究、および、その他の行事は、以下の通りである。

		(担当者)
10 月		
3 日	プレイズメントテスト 1 オリエンテーション	中川
7 日	開講式	
10 日	プレイズメントテスト 2	石原
17 日	広島見学 1（広島城・平和公園）	石原
24 日	特別講義「音声学」	石原
31 日	広島見学 2（現代美術館ほか/ホストファミリー対面）	中川
11 月		
7 日	特別講義「現代日本語の語彙 I」	田村
14 日	特別講義「現代日本語の語彙 II」	田村
21 日	特別講義「世界の平和教育」	中矢
28 日	宮島見学	石原
12 月		
5 日	特別講義「俳句入門」	浮田
12 日	マツダ見学	石原
19 日	特別講義「日本語と文体」	中川
1 月		
9 日	特別講義「インド仏教と日本文化」	本田
16 日	特別講義「日本社会とジェンダー」	恒松
3 月		
27-28 日	瀬戸内海しまなみ研修ツアー	中川
4 月		
3 日	プレイズメントテスト 1	
10 日	オリエンテーション 2	中川
17 日	研修レポート構想発表 1/2	石原
24 日	研修レポート構想発表 2/2	石原
5 月		
8 日	特別講義「日本語と方言 - 沖縄のことば -」	多和田
15 日	尾道見学	田村
22 日	特別講義「日本の高等教育の国際化と市場化」	中矢

6月

5日	特別講義「日本語と文体2」	中川
12日	呉見学：大和ミュージアム+倉橋島：長門の造船歴史館	中川
19日	特別講義「古事記と日本神話」	石原
21日	ホームステイ協会交流会	中川
26日	特別講義「比較言語文化論の視点」	浮田

7月

10日	研修レポート中間発表 1/2	石原
17日	研修レポート中間発表 2/2	石原
25-26日	松江・出雲見学旅行	石原

8月

7日	サタケ見学	中川
----	-------	----

9月

6日	レポート提出締め切り	
7日	研修成果発表会、修了式	

第16期 平成27年度(2015年度) 日韓共同理工系学部留学生事業入学前予備教育

石原淳也

平成10年10月の「日韓共同宣言」、平成12年8月に文部省より通知のあった「日韓共同理工系学部留学生事業実施要項」、同年8月に決定された「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施要項および「広島大学日韓理工系学部留学生事業」入学前予備教育実施要項に基づき、平成12年11月より広島大学においても学部入学前予備教育生に対する「広島大学日韓理工系学部留学生事業」の予備教育が開始された。以来、平成15年度まで各5名ずつ、平成16年度2名、17年度5名、18年度4名、19年度、20年度は5名、21年度2名、22年度5名、23年度5名、24年度は6名と途切れることなく学部入学前予備教育生を受け入れ、25、26年度に続き27年度も7名の予備教育生を受け入れることとなった。

旧留学生センターは同事業の立ち上げ段階である平成12年6月の「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」ワーキンググループの発足段階から同事業の予備教育実施機関として中心的な役割を果たしてきた。法人化による国際交流委員会の廃止で、平成16年度より21年度まで「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施部会は留学生センター運営委員会のもとに組織されてきたが、22年度からは、旧留学生センターの改組に伴い、留学生センター運営委員会が廃止されたため、「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施部会は国際センター長を部会長として国際センターの下に組織されている。国際センター(旧留学生センター)からはセンター長のほか、石原准教授が委員・副部会長として部会に参加している。

本事業において国際センターは

1. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」実施部会への参加
2. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」予備教育の実施
3. 学部入学前予備教育生に対する修学上・生活上の指導・助言
4. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」予備教育の計画策定
5. 見学引率
6. 日本語教育謝金講師の指導・サポート
7. その他謝金講師のサポート
8. 学生チューターの指導

等の業務を行っている。

本学で実施する予備教育について

・日本語科目

平成 15 年度までは、入学前予備教育において、日韓共同理工系学部留学生用に特別の日本語教育を実施していたが、平成 16 年度からは全学の留学生に向け開講されている「日本語・日本事情」を履修させることとなった。また、学生の日本語能力に合わせ、レベル 3, 4 を履修させていたが、22 年度からレベル 4, 5 を履修させることとなった。しかしながら、レベル 4 で使用されている教科書が、韓国国内で行われている予備教育の前半課程において開講されている一部の日本語の授業で使われていることから、25 年度より、本予備教育生のためだけにレベル 4 相当の授業を二コマ 10 週にわたって開講することとなった。なお、従来より、学生の日本語能力の差にきめ細かく目配りできるよう、本予備教育生のみを対象とした日本語会話、日本語作文、日韓文化論を各 1 コマ開設している。

・専門科目

本学では第一期から、日本語とともに、数学、物理、化学に加え、学生が生物系に進学する可能性がある場合は生物も含めた理系科目を開設している。以前は、大学院生を講師に、大学入試レベルの問題演習を通して、入学後、日本語で実施される授業に十分ついて行けるだけの基本的な学力、授業を理解するのに最低限必要な日本語力を身につけさせるというものであったが、23 年度からは、広島大学マスターズという広大を退職された先生方の団体に講師を依頼することになり、授業内容も従来からの問題演習中心のものではなく、大学入学後、教養教育で行われる授業の基本的な内容を先取りし、講義の形で行うものとなっている。

また、英語に関しては外国語教育センターの全学向け「英語研修プログラム」から自分にあったものを選び、一コマ受講するようになっている。

なお、本年度における時間割、行事は次ページの通り。

時間割

	月	火	水	木	金
1					日本語会話 坂田
2	数学 今岡	日本の社会・文化B 中矢	化学 谷本・平田	日本語中級B 尾形	日韓比較文化論 坂田
3		生物 渡辺、設楽、榊井	映像日本語 特別演習B 石原	物理 米倉・山下	日本語作文 坂田
4	日本語聴解 特別演習B 深見	日本語中級A 松村		日本語分析 特別演習B 中川	
5	英語(1コマ)				

行事

	期間	行事等	見学(金曜)	備考
W0	10/1-10/3	2 渡日		
W1	10/4-10/10	6(午後)開講式 オリエンテーション 7 授業開始(4コマ～)		
W2	10/11-10/17	12 体育の日	終日 広島見学(広島城・平和公園)	月なし
W3	10/18-10/24			
W4	10/25-10/31			
W5	11/1-11/7	3 文化の日		
W6	11/8-11/14			
W7	11/15-11/21			
W8	11/22-11/28	23 勤労感謝の日	終日 宮島見学	月なし
W9	11/29-12/5			
W10	12/6-12/12			
W11	12/13-12/19		マツダ見学	
		23 天皇誕生日 冬休み(12/26-1/5)		
W12	1/6-1/9			
W13	1/10-1/16	11 成人の日		月なし
W14	1/17-1/23			
W15	1/24-1/30	専門科目終了		
W16	1/31-2/6			
W17	2/7-2/13	11 建国記念日		
		春休み(2/16-)		
	3月中下旬	修了式		

広島大学短期交換留学(HUSA)プログラム活動報告

堀田泰司・恒松直美

沿革

1993年に日米文化教育交流会議(The United States - Japan Conference on Cultural and Educational Interchange: 通称カルコン CULCON)が開催され日米間の学生交流の促進が謳われ、政府支援の下、1995 - 96年に8国立大学が短期学生交流プログラムを開始した。広島大学短期交換留学プログラム(Hiroshima University Study Abroad Program, 以下HUSAプログラム)は、その8国立大学の1つとして、1996年に開始され、これまで積極的に学生交流を促進してきた。よって、当初の本学の短期交換留学プログラムの目的は、米国の高等教育機関との交流を中心とするものであった。しかし、プログラムは徐々に拡大し、現在は、世界中に点在する協定大学66大学及び2コンソーシアム(University Studies Abroad Consortium, USAC及びUniversity Mobility in Asia and the Pacific, UMAP, アジア太平洋大学交流機構)と交流を行っており、交換留学生受入れ・派遣留学を通して学生に異文化を体験させるだけでなく、留学しない本学のキャンパスで学習する学生に対しても異文化交流の機会を提供し、より多くの学生に国際教育の場を提供している。

教育内容としては、世界中の留学生が本学で学べるように英語による特別科目を開講し、より質の高い教育を提供するよう努力している。近年では、留学生に対し、新しく学生主導型で進める「グローバル化支援インターンシップ」を開講し、地域と協力して地域社会がグローバル社会に対応するための地域活性化プロジェクトにも取り組むとともに、「多文化共生の地域づくり実践研究グループ・プロジェクト」にも挑戦するなど地域社会との連携を学生が自主的に取り組む挑戦も開始した。また、海外へ留学を希望する本学の在籍学生に対しては、説明会、留学フェア、文化交流会等の開催に加え、本学が積極的に参加している大学間コンソーシアムのINU(International Network of Universities)を活用し、アメリカとオーストラリアの教授によるオンライン・ビデオ講義を駆使した国際教養科目を開講し、本学の派遣留学予備軍の養成を目指している。

さらに、2000年より、コンソーシアム型学生交流の促進を目指しUMAP(University Mobility in Asia and Pacific)事業に参加し、留学した学生の単位互換をより公平、且つ正確に行うためUMAPが開発したUCTS(UMAP単位互換方式、UMAP Credit Transfer Scheme)を採用し、全協定大学に対する本学の教育プログラムの透明性と互換性を高めている。現在は、UMAPが新たに開発したUSCO(UMAP Student Connection Online)事業に

も積極的に参加し、アジア・太平洋諸国の学生交流促進に貢献している。

運営組織としては、HUSA プログラム開始当初から全学組織である短期留学交流プログラム部会が全体を統括し、交換留学生の選考、協定大学との調整・交渉、英語による国際教育プログラムの拡充等について検討している。部会は各部局代表委員並びにその他委員により構成されている。また、プログラムを直接、管理運営する組織としては、国際センターの国際教育部門の教員2名及び留学交流担当の職員がその主たる業務を担っている。

1. 受け入れプログラムの概要

- ・ 受け入れ期間：一学期または一学年
- ・ 募集人員：約40名
- ・ 募集方法：学生交流協定を締結している（締結する）各国の大学に対し募集要項を配布し、公募する
- ・ 応募資格：
 - (1) 本学との間に学生交流協定を締結している大学の学生または学生交流について双方が合意した書簡がある大学の学生
 - (2) 原則として自国の大学の正規課程3年次の学部学生（協定校によっては、大学院生も含む）
 - (3) 学業成績が優秀で日本留学に熱意を持つ者
 - (4) 非英語圏から応募する学生にあっては英語又は日本語による授業を履修できるのに必要な英語力を持つ者
- ・ 選考方法：短期留学交流プログラム部会において、協定大学の推薦・UMAP 学習計画書・プログラム参加目的を参考にし、書類選考を行う。
- ・ 学生の身分と受け入れ方法：学生は、国際センターで統括し、学部生は「特別聴講学生」、院生は「特別研究学生」又は「特別聴講学生」（広島大学学生交流規定）として受け入れる。
- ・ 授業料等の不徴収：交流協定に基づき、特別聴講学生として受け入れるので、授業料等を徴収しない（なお授業料については、協定において「相互不徴収」について合意する必要がある）。
- ・ カリキュラム：授業科目は、3つの形態から構成されている。「特設科目」(Special Course)は、HUSA プログラムの留学生のために特別に開設された主に英語による授業であり、「常設科目」(Integrated Course)は、既に学部で開設されていたものに、HUSA プログラムの学生が登録した場合、英語による支援を行う授業、または日本人学生向けに易しい英語で授業を行うものであり、日本人学生と共に履修する。

第3に「日本語関係科目」は主に教育学部が開設し、国際センターが実施している日本語（初級・中級・上級）及び日本事情の科目である。さらに、日本語レベルが上級の学生は、各学部で正規学生用に開設されている授業を受講することができる。授業科目は各学部が開設しているものであり、その統括は各学部でおこなわれている。以下が、2014-2015年度に開設された授業科目一覧表である。

2015-2016 度（2015 年 10 月～2016 年 7 月）授業科目一覧

2015 度秋学期

1. 特設科目【Special Course】

授業科目名	単位数	備考
Study on International Issues and Challenges	3 単位	教育学部
Family Life in Japan	2 単位	教育学部
Globalization Support Internship I: Career Theory and Practice	2 単位	教育学部
Globalization Support Internship II: Practicum No.1	2 単位	教育学部
Japanese Culture and Peace	2 単位	教育学部
Japanese Society and Gender Issues	2 単位	教育学部
Quantitative Methods in the Social Sciences (Introductory Statistics and Regression Analysis)	2 単位	教育学部
Study on Japanese Companies & Organizations	2 単位	教育学部
Independent Study on Japanese Companies & Organizations	1 単位	教育学部
Independent Study on Japanese Culture and Peace	1 単位	教育学部
The Independent Study on Japanese Society and Gender Issues	1 単位	教育学部
From the microscopic world to macroscopic universe	2 単位	総合科学部
Japanese Society and Lifestyle B	2 単位	総合科学部
Introduction to Phonetics and Phonology	2 単位	総合科学部
Seminar in English Debate	2 単位	総合科学部
Introduction to Environmental Chemistry	2 単位	工学部

2. 常設科目【Integrated Course】

授業科目名	単位数	備考
Earth Environmental Chemistry	2 単位	総合科学部
General Health and Oral Sciences	2 単位	総合科学部
Studies of Second Language Acquisition	2 単位	総合科学部
Animal Science and Technology	2 単位	生物生産学部

Fish Production	2 単位	生物生産学部
Global Environmental Issues and Managements	2 単位	生物生産学部
Insect Science	2 単位	生物生産学部
Modem Food Science	2 単位	生物生産学部
Molecular-Level Understanding of Functionality of Foods	2 単位	生物生産学部
Physiology of Field Crop Production	2 単位	生物生産学部
Plankton, Benthos and Seaweed Production	2 単位	生物生産学部
Tropical Biosphere Science I	2 単位	生物生産学部
Tropical Biosphere Science II	2 単位	生物生産学部
Topics in Algebra	2 単位	理学部

2016 度春学期

1. 特設科目【Special Course】

授業科目名	単位数	備考
Study on International and Challenges	3 単位	教育学部
Cross-Cultural Studies on Education	2 単位	教育学部
Japanese Art and Global Education	2 単位	教育学部
Study on Japanese Companies and Organizations	2 単位	教育学部
The Japanese Culture and Peace	2 単位	教育学部
The Independent Study on Japanese Companies and Organizations	1 単位	教育学部
The Independent Study on Japanese Culture and Peace	1 単位	教育学部
Japanese Society and Lifestyles A	2 単位	総合科学部
Politics and Foreign Relations of Japan	2 単位	法学部
Special Subject IV	2 単位	経済学部
Modern Chemistry	2 単位	理学部
Recent Developments in Biological Science	2 単位	理学部

2. 常設科目【Integrated Course】

授業科目名	単位数	備考
INU Collaborated Special Lecture	2 単位	教育学部
Introduction to Linguistics	2 単位	総合科学部
Psycholinguistics	2 単位	総合科学部

Second Language Acquisition	2 単位	総合科学部
English Grammar	2 単位	文学部
Legal System and Japanese Society	2 単位	法学部
CMOS Logic Circuit Design	2 単位	工学部
Tropical Biosphere Science A	2 単位	生物生産学部
Tropical Biosphere Science B	2 単位	生物生産学部

日本語・日本事情関係科目

授業科目名	単位数	開講学期	備考
日本語初級 IA	2 単位		国際センター
日本語初級 IB	2 単位	秋学期	国際センター
日本語初級 IC	2 単位	秋学期	国際センター
日本語初級 ID	2 単位	秋学期	国際センター
日本語初級 IIA	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語初級 IIB	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語初級 IIC	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級 IA	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級 IB	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級 IC	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級 IIA	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級 IIB	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語中級 IIC	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語聴解特別演習 A	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語表現特別演習 A	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語古文特別演習 A	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級 B (リスニング)	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級 B (映画)	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級 B (古典)	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級 B (語彙)	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級 B (表現)	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本語上級 B (分析)	2 単位	秋・春学期	国際センター
日本社会・文化 A	2 単位	秋・春学期	国際センター

日本社会と文化 B		秋・春学期	国際センター
日本の思想・哲学 A	2単位	秋・春学期	国際センター
日本思想と哲学 B	2単位	秋・春学期	国際センター
日本の地域・文化 A	2単位	秋・春学期	国際センター
日本の地域・文化 B	2単位	秋・春学期	国際センター
日本の映像文化史 A	2単位	秋・春学期	国際センター

・受け入れ体制の整備：(1) 日本における様々な体験学習の場を提供する。(2) 学生宿舎（日本人・留学生混在型）を用意する。(3) 日本人学生サポーターを事前に配置し、受け入れ開始と同時に留学生を支援する。(4) 日本語学習の補助として日本人学生の会話パートナーを紹介する。(5) 入国時身元保証人としては、各指導教官に依頼せず、機関保障（広島大学）とする。(6) 本学が提供する教育の質を保証する活動の一環とし、成績証明書に UMAP の単位互換方式である UCTS を導入し、単位互換を促進する。

II. 2015-2016 年度 HUSA プログラム留学生受け入れ状況

2015-2016 年度は、36 名の留学生を受け入れた。期間は、殆どの学生が 1 年間の滞在を希望しており、男女別で見ると 2015-2016 年度 HUSA プログラムに参加した学生数は、男子学生 14 名、女子学生 22 名であった。

III. 2015-2016 年度 HUSA プログラム受け入れに関する業務及び活動内容

◆ 申請と選考

2014 年度募集要項は、2014 年 1 月に各協定大学へ配布され、3 月末に各大学から参加希望者が推薦された。推薦された学生について、4 月に本学の選考委員会によって HUSA プログラム参加者が正式決定された。今年度も、受け入れ留学生の申請において、UMAP 学習計画書を申請書類の中に組み込み、選考や奨学金の推薦の参考資料とした。2004 年度の申請から、受け入れ留学生のオンライン登録システムを導入し、2 本年度も継続してオンライン登録を使用した。オンライン登録により、学生が直接インターネットから情報を入力し、受け入れ留学生のデータベースが作成できるようになった。システムも毎年整備し、より効率的な形でオンライン登録が可能となっている。HUSA 受け入れ留学生が増加していくことが予測される中、今後も学生のデータベース作成及び管理にオンライン登録を活用していきたい。

◆ 渡日前の情報の提供

渡日前のオリエンテーションと日本での生活の準備を兼ねて、広島大学及び留学生生活に関する情報を網羅した英語版の「短期交換留学生用手引き(Information for New Students)」を改訂して各学生に送付した。また、ホームページで HUSA プログラム、広島大学、日本での生活について詳細な情報を提供するとともに、「よくある質問」を掲載し留学生がよく疑問に思う事項について説明した。学生の個人的な質問等には、電子メール等を活用し直接個々のケースに対応した。

◆ チューターオリエンテーション

日本人学生チューターに対し、今年度も事前に2回の説明会を行った。第1回目は、チューターとしての全般的な支援活動の内容について説明し、第2回目は、留学生が来日する直前に、渡日後1週間の事務手続き並びに寮へ入居するまでの具体的な支援活動についてオリエンテーションを行った。

◆ 見学・体験学習

2015年2月には、「グローバル化支援インターンシップ」を受講する留学生インターンが担当教員の指導のもと呉市倉橋町にある「長門の造船歴史館」において、地域行政の協力を得て日本の外交史や造船の歴史を日本語と英語で地域の人々に紹介する国際観光ガイド・インターンシップに挑戦した。4月には、HUSA プログラム留学生向けの「安芸灘とびしま海道国際交流歴史ツアー」を企画した。旧家を移築した江戸時代の友好使節団「朝鮮通信使」の資料館や陶磁器館などの資料館を含む松濤館や白雪楼を訪問し歴史について学ぶとともに地域関係者と交流する機会を設けた。2015年度秋学期も、例年のように10月に呉市吉浦秋大祭見学ツアーを行い日本文化の体験学習の機会を提供した。日本の地域に伝わる祭りの歴史と地域社会のしくみについて学ぶとともに来日直後の留学生間及び地域の人々との国際交流の場ともなっている。

◆ 授業科目の開設状況

短期プログラム用の開設科目は、毎年、各学部で審議され、今年度も、特設科目・常設科目・日本語教育が短期交換留学生のために開講された。日本語教育科目は、短期交換留学プログラム用の特設科目となっている。2003年度から初級・中級を特設科目とし、上級の科目は研修生や正規留学生及び研究生と合同で受講することになり、幅広い充実した日本語カリキュラムが組まれている。

◆ 「グローバル化支援インターンシップ」

2003年度より春学期に「HUSA インターンシップ」コースを開設して以来、毎年インターンとして地域企業に2週間派遣してきた。2005年度よりインターンシップ派遣前に事前研修を開始し、インターンシップの準備体制を充実させてきた。2010年度前

期より企業体験者を招聘して全学公開セミナーを開き、留学生が本学学生と共に国際的視野から将来を考える場を創出した。また、2010年度後期からは社会体験者講話に基づいたPBL(課題発見解決型学習法)による留学生と本学学生の協同学習も導入し、学生のグローバルな視野からのアクティブ・ラーニングの場を構築してきた。

2012年度秋学期からは、「グローバル化インターンシップⅠ: キャリア理論と実践」・「グローバル化支援インターンシップⅡ: 実習」と題して新しく「学生主導型」の交換留学生向けインターンシップの授業を開講した。「派遣型」から「学生主導型」へと新しくパラダイム転換を図った「グローバル化支援インターンシップ」では、留学生の学術知を地域社会において実践知として生かす国際的体験学習の場を構築している。2015年には呉市市役所産業部観光振興課の協力を得て、留学生インターンが国際観光ガイドとして地域の歴史的資産を紹介する「国際観光ガイド・インターンシップ」を実施するとともに地域団体の協力を得て地域商業祭である「倉橋フェスティバル」にも参画する機会を持った。また、「国際交流歴史ツアー」企画では、地域との連携を強化し、留学生の知見を地域創生に生かす方策を模索している。2013年4月には「江田島国際交流歴史ツアー」、2014年4月には「倉橋・江田島国際交流歴史ツアー」を企画するなど様々なツアー企画に挑む実習を発展させてきた。呉市立倉橋中学校との国際交流会では、留学生インターンが留学体験について日本語でスピーチを行うなど、日本文化の理論的知識を地域学校及び地域社会の人々と共有するとともに協同学習の場を構築し、外国人の知見を多文化共生の地域づくりに貢献している。

◆ 自国と日本の比較研究・「多文化共生の地域づくり実践研究グループ・プロジェクト」

2013-2014年度より、プログラム参加留学生は、各自が研究テーマを自由に選択し、研究を行っている。2013年度は自国と日本との比較研究、2014年度は日本に焦点をあてた研究を進めた。テーマは、敬語の使用法、方言、小説、日本の世界文化遺産の保護、古代日本における漢字、教育問題、日本の外交史、日本による開発支援、留学の課題、日本の若者と政治、など多岐に渡る。研究発表会では日本に関する調査結果を提示し合うことにより研究成果を共有し相互の知識を高めている。2015-2016年度はHUSAプログラム留学生の多国籍チーム7グループを構成し、「多文化共生の地域づくり実践研究グループ・プロジェクト」に各グループでテーマを決めて取り組んだ。学内関係者及び地域関係者・学校関係者を招聘し企画会議・中間発表会・最終発表会を開催してプロジェクト成功に向けて地域協働で議論する場を持った。留学生は地域小学校における異文化理解促進のための国際交流の企画及び広島県国際センターや学内における異文化紹介セミナーなど積極的に企画を立ち上げ実行した。留学生主導でこれらの企画を実行したことは評価に値する。

◆ 文化交流支援活動

9月に来日した際に行う HUSA プログラム・オリエンテーションは2006年度より2日間に亘って行っており、本学で勉学するにあたっての心構えや事務手続きなど全般に渡る指導を行っている。異文化適応についての指導や日本文化理解のためのグループ・ワーク、クラブ紹介、HUSA プログラム参加留学生間の交流及び広島大学学生との交流並びに先輩からのアドバイスも盛り込み、学生間の交流を促進し、本学での生活に早く慣れるよう企画した。

国際センターで運営する国際交流ボランティア制度を利用し、日本人学生の会話パートナーを短期交換留学生に紹介する会合を開き、交流を促進した。また、日本人サポーターを、国際交流ボランティア、広島大学電子掲示板を通して募集し、国際交流に関心の高い学生を採用し充実した支援提供に努めている。

◆ 地域貢献

2003年~2006年度まで、東広島商工会議所より、国際理解のための留学生の母国についての講話の依頼があり、フランス・韓国(2003)、アメリカ・カナダ・ギリシャ(2004)、ドイツ(2005)、タイ(2006)からの HUSA 留学生が商工会議所を訪問し、母国の文化・習慣や日本との相違について話す体験を持った。担当教員も、2011年度に東広島商工会議所文化交流委員会において、「広島大学の国際化と産学連携：短期交換留学生インターンシップ」と題して講話を行った。2011年度より「グローバル化支援インターンシップ」により地域の国際観光振興や多文化共生の地域づくりに貢献する留学生の国際的体験学習を企画してきた。地域の小学校・中学校・高校における国際交流も企画してきている。これらの体験学習により日本の地域社会と連携する力もつけつつある。

◆ HUSA 広報活動

HUSA ホームページにはプログラムの概要、申請方法、スタッフ紹介、HUSA に関するニュース、開講コース案内、インターンシップと産学連携、奨学金・寮・大学施設についての情報、国際交流行事案内、HUSA パンフレット、広島大学及び地域についての情報など、留学に関わる情報が網羅されている。サイトを常に更新し、HUSA プログラムについての最新情報を提供している。2014年5月には HUSA フェースブックを立ち上げ最新のニュース提供を行っている。また担当教員の研究ホームページにおいて HUSA プログラムの授業や国際教育・異文化間教育等の分野に関する研究の紹介をしている。

◆ HUSA プログラム評価

プログラム改善に役立てるため、毎学期、HUSA プログラム全体評価、各コース評

価、学生チューター評価を行っている。学生にアンケート用紙を配布し、回収し、結果をまとめ、プログラム改善に役立てている。アンケート調査結果は短期留学交流プログラム部会において報告し改善のための示唆を得ている。

IV. 2015-2016 年度 HUSA プログラム派遣留学に関する活動

本学からの留学生派遣事業に関しては、本年度も 2015 年 1 月初旬に応募者の選考試験を行い、中旬には短期留学交流プログラム部会で選考を行った。2-3 月には、協定大学への申請手続きを行い、5 月から 10 月に派遣した。オセアニアへは、2016 年の 1-2 月に派遣した。以下は、派遣学生の募集と選考に関する概要である。

1. 制度の趣旨：

広島大学短期交換留学(派遣)プログラムは、本学の学部生・大学院生が在籍しつつ、学生交流協定に基づいて、海外の協定大学へ 1 学期または概ね 1 年間留学し、専門教育または外国語教育等を受けて単位を取得するものである。本学で単位互換することにより、海外に留学しても通常の修学年限内に卒業できることを目指した制度である。本プログラムは、1996 年後期から開始され、現在アメリカ、カナダ、ブラジル、オーストラリア、ニュージーランド、インドネシア、シンガポール、タイ、フィリピン、マレーシア、韓国、中国、台湾、トルコ、ポーランド、ロシア、オーストリア、イギリス、オランダ、スウェーデン、ドイツ、フィンランド、フランス等の 66 大学からの交換学生を受入れ、同時にそれらの大学へ、本学に在籍する学生を派遣している。また、海外の高等教育機関によって運営されている USAC や UMAP 等のコンソーシアム型の学生交流に参加することで、本学からの派遣国並びに派遣対象大学は拡大し、過去においても本学が独自に協定を持たないガーナ、メキシコ、コスタリカ、イタリア、フランス、スペイン等へも派遣している。さらに非営利団体である「あしなが育英会」とも協定を締結し、これまでに 2 名の留学生を受け入れている。

2. 特徴：

- ・ **授業料不徴収：** 本プログラムで留学する学生は、協定大学では授業料を支払う必要がない。
- ・ **奨学金：** 日本学生支援機構による留学生交流支援制度、並びに佐藤陽国際奨学財団海外派遣奨学制度等の奨学金が一部派遣学生に支給されている。
- ・ **単位互換制度：** 全協定大学の単位制度に対し、UMAPのUCTSを活用することにより、公平、且つ正確な単位互換を行っている。また、UMAP学習計画書を実施することにより、派遣学生・指導教員・協定大学が、

学生の履修計画並びに単位互換に関し、事前に相互に承諾を得ることができ、交換留学の実質的な活動を円滑に進めることができる。

- ・ **現地コーディネーターのアシスタント**：協定大学の国際室並びに関係部局における本学との交流事業をコーディネートする事務職員と連携し、派遣学生の留学生生活を支援している。
- ・ **短期交換留学生との留学前の交流及び留学後の現地での交流**：留学前に留学先から本学に留学している学生と交流会を持つことにより、現地での生活の状況、授業やクラブ活動等の学生生活に関する最新の情報等を得ることができる。また、留学後は、帰国した留学生と現地での交友関係を構築しやすい。

3. 出願書類

①派遣申請書

②留学計画書

③外国語検定試験の成績表

(英語・中国語・ドイツ語・フランス語の検定試験については、それぞれの検定試験に一定の基準を設け評価している)

④学業成績証明書

4. 出願書類提出先及び締切り

各学部等派遣留学担当係へ例年11月末までに提出する。

5. 面接（口述）試験

(ア) 学生から提出された申請書類の留学計画を基に例年1月の第1週に面接試験を行っている。試験は、広島大学短期留学交流プログラム部会の委員による1グループ3名程度の審査員によって実施される。審査員が学生の留学計画、異文化適応能力等についてそれぞれ5段階評価をつけ、その平均点を最終審査会の1つの評価指標としている。

6. 選考委員会の実施

(イ) 例年1月下旬に、広島大学短期留学交流プログラム部会において、派遣留学生の選考を実施している。主に学生の留学志望校、語学能力、面接試験結果、学業成績を考慮し、可能な限り多くの学生を推薦できるよう配慮し選考及び推薦を行っている。

V. 2015-2016年度 HUSA 留学生派遣事業の実績

2015年度の短期交換留学生派遣に関しては、35名を推薦し、アメリカ、カナダ、イギリス、フィンランド、フランス、ドイツ、ニュージーランド、韓国、インドネシア、フィリピン、スウェーデン、オーストラリアの20大学と1コンソーシアム・プログラムへ派遣した。派遣国は、欧米だけでなく、アジア諸国への派遣も拡大しているが、全協定大学との交流バランスでは受入れ超過傾向にあり、今後もアジアだけでなく欧州諸国への派遣留学も促進する必要がある。また、本学では、協定大学が開講する超短期（1学期未満）プログラムへの留学も選考、派遣しており、2015年度は、2大学（、韓国1校、ロシア1校）へ合計8名を派遣した。派遣規模は、年々拡大しており、受入れ超過傾向にある協定大学への通常の1学期または1年間の派遣を含め、今後も継続して派遣を拡大していく計画である。

VI. HUSA 留学生派遣事業の活動状況

広報活動：27年度は、毎年5-6月に実施する留学フェア並びに説明会、そして担当教職員による交換留学に関するメールや面談による相談に加え、多くの一般学生が集うラウンジに留学情報コーナー及び学生アシスタントによる留学相談デスクを設置した。その結果、協定大学の紹介や留学までの段階的な留学準備の仕方について興味のある学生は、いつでも情報収集し、留学相談できるようになった。

留学前の情報提供と留学計画の促進：例年、派遣が決定した本学の学生に対し2度（4月と7月）に渡るオリエンテーションを実施しており、留学に関する一般的な情報と共に、協定校から来ている留学生との交流の場を提供している。その学生間の交流は留学後も続き、協定校においても継続的な交流活動が行われている。また、留学前に指導教員及び学部と単位互換について確認する目的で、UMAP学習計画書を6月の第2回目のオリエンテーションで配布し、留学前までに提出するよう要求している。

INU 特別協力講義：26年度も、派遣留学を促進するため、すでに2006年より開講してきたINU特別協力講義並びに集中講義を実施した。一般の教養科目として開講されているINU特別協力講義は、INUネットワークを利用し、アメリカとオーストラリアの協定大学の教員によるビデオ講義を活用したWebCT上で授業を展開するオンライン教育科目である。教育交流部門の教員がそのうちの1科目（特別講義と集中講義合わせて1セットの講義）を担当し、「アメリカの文化と社会」と題し、アメリカ人講師のビデオ講義を基に授業を行った。

VII. その他の主な活動

本学は、学外での活動としてアジア太平洋諸国の政府並びに高等教育機関によって運営されているUMAP（アジア太平洋学生交流機構）の学生交流促進事業に積極的に参加してきた。

2013年5月には、本学の担当教員が、UMAPがこれまで活用してきたUCTS（UMAP単位互換制度）について、新たな概念（**Asian Academic Credits**, 以下AACs）の導入を提案し、国際理事会にて、承認された。

AACsの概念とは、以下の通りである。

1 UCTS=38~48 学修時間数とする。また、その学修時間数には、13~16 時間の授業時間数(academic hour)が含まれる。

AACsを新たなUCTSの基本理念として導入することによりUMAP参加大学の多くの間では、1単位の価値は等価と見なすことができ、単位互換が簡素化され、学生交流の促進が期待できる。また、アジア共通の単位互換性度を構築した場合、欧米諸国との単位互換も簡素化され、アジアと他地域の学生交流促進にも貢献することができる。ただし、新たな概念は科目間の内容の互換性を保証する手法が含まれていないので、今後、さらなる開発が必要である。現在、同様の単位互換の概念は、アセアン諸国等の他の学生交流事業においても、導入が検討されている。例えば、アセアン諸国はメコン川流域6ヶ国（タイ、中国、マレーシア、カンボジア、ラオス、ベトナム）の23大学を対象に2015年度から新たな学生交流事業としてACTFA(Academic Credit Transfer Framework for Asia)プロジェクト（アジア開発銀行支援）を立ち上げた。そして、そのプロジェクトでは、AACsの概念を活用し、参加大学の学生交流事業を拡充しようとしている。

海外からの表敬訪問・海外及び国内の大学訪問及び会議への参加等

2015年

- 5月 * 広島大学短期交換留学プログラム留学生「安芸灘とびしま海道・国際交流歴史ツアー」企画・実施（恒松）
* 広島大学附属高等学校スーパーサイエンス・ハイスクール第1回運営指導委員会出席（恒松）
- 6月 * 呉市役所じぶん投資セミナー「異文化理解セミナー第1回：グローバル社会と私たち－異文化との接触に備える」開催（呉市福祉会館）（恒松）
- 8月 * 広島県立日彰館高等学校訪問「日彰館高校グローバル人材育成プログラム120 吉舎おも

てなしプラン国際交流行事」会議（恒松）

10月 * 呉市役所じぶん投資セミナー「異文化理解セミナー第2回：自分の枠をはずそう」開
（呉市福祉会館）（恒松）

11月 * 「地域と協働で創る多文化共生社会」公開国際セミナー開催（「グローバル化支援イン
ターンシップ」）（広島大学国際センター）（恒松）

* 広島大学附属高校スーパーサイエンス・ハイスクール「科学英語表現」英語合宿
講師（恒松）

* 広島県立日彰館高校グローバル人材育成プログラム120 - 吉舎おもてなしプラン
「広島大学短期交換留学プログラム留学生との国際交流会」企画・司会（恒松）

2016年

2月 * 呉市倉橋町「倉橋フェスティバル」における「グローバル化支援インターンシップ」・
「多文化共生の地域づくり実践研究グループ・プロジェクト」実習（恒松）

* 広島大学附属高校スーパーサイエンス・ハイスクール運営指導委員会 出席（恒松）

日本語・日本文化特別研修（中国）（台湾）（アジア非漢字圏）、 中国語・中国文化特別研修、華語・台湾文化特別研修

本田義央

1. 日本語・日本文化特別研修（中国）（台湾）（アジア非漢字圏）

本プログラムは、中華人民共和国及び台湾の大学で日本について学んでいる学生を2週間本学に受入れ、研修生が、日本語・日本文化の講義、実習・体験、学生交流によって、日本についての理解・関心を深め、帰国後さらに勉強を続けた後、本学へ再び留学し、日中及び日台の交流に貢献できる人材として成長することを支援することを目的として2010年度夏から実施してきたものである。今年度は、前年度にひきつづき、中華人民共和国、台湾、アジア非漢字圏からのそれぞれ夏冬1つ計6つの研修を実施した。冬のアジア非漢字圏を対象としたプログラムは、年度当初は予定していなかったが、JASSO 短期受入れプログラムの追加採択を受けて実施することができたものである。また、同じく冬期の台湾プログラムと中国プログラムも JASSO 短期受け入れプログラムとして追加採択され一部の研修生には奨学金が支給された。

夏期（台湾） 7月6日～21日 8名

（中国） 7月21日～8月5日 43名

（アジア非漢字圏）8月9日～8月24日 21名

冬期（台湾） 1月17日～2月1日 31名

（中国） 2月14日～2月29日 78名

（アジア非漢字圏）2月20日～3月6日 名

過去の研修生で本学大学院へ留学した者の中から、今年度末に博士課程前期修了者が、博士後期課程へ進学する者、出身地での就職をした者、日本での就職をした者がいる。それぞれのところで更なる活躍が期待される。引き続き研修を改善し、広島大学の魅力を伝え、優秀な留学生の獲得へつなげていきたい。

2. 中国語・中国文化特別研修

本プログラムは、1. 日本語・日本文化特別研修（中国）との双方向性をもつ派遣プログラムとして実施してきたもので、今年度は中華人民共和国3都市へ3週間の派遣プログラムとして計画したが、応募者が少なく中止せざるを得なかった。政治的な問題などが応募少数の要因であるが、そうであるがゆえに、相互の言語・文化の理解深化と若い学生間の交流の重要性を伝える努力が今後必要であろう。

3. 華語・台湾文化特別研修

本プログラムは、1. 日本語・日本文化特別研修（台湾）との双方向性をもつ派遣研修として実施してきたもので、今年度は、8月17日～8月31日の2週間、桃園市の開南大学に1名の研修生を派遣した。

研究・その他の活動（2015年4月～2016年3月）

1. 研究論文・著書

- 田村泰男 「和語系接尾辞(接尾語)について」『広島大学国際センター紀要』第6号, 2016年3月, pp.49 - 58
- 恒松直美 「留学生による地域協働の実習のエンパワーメント評価 — 歴史資産を紹介する『国際観光ガイド』インターンシップ —」, 『大学論集』第48集, 2016年, pp.195-209. [研究ノート]
- Tsunematsu, Naomi. (2016). Situated Learning of International Students through Internship in Japan: Professor as Reflexive Anthropologist Managing Uchi/Soto Relations. *Bulletin of International Center of Hiroshima University*, 6, 1-19.
- Tsunematsu, Naomi. (2016). Multinational Students' Cooperation and Agency: Theoretical Issues in International Students' Internship Working with the Local Society in Japan. *International Students' Education of Hiroshima University*, 20, 15-30.
- 中川正弘 「Roland Barthes : *Le Degré zéro de l'écriture* — 日本語翻訳と考えるシンタクス —」, 『広島大学フランス文学研究』第34号, 2015年, pp. 65-85 (広島大学図書館リポジトリ登録公開版には補遺 22 頁付)
- 中川正弘 「日本語とフランス語の間で… : je cuid et pense en J/F, donc je suis, 『流域』第36巻1号, 青山社, 2015年, pp.48-57
- 中矢礼美 「インドネシアの高等教育における地域開発のための人材育成 — 実践教育 (KKN) に注目して —」 広島大学高等教育研究開発センター『大学論集』第47集, 2015年, pp.217-230
- 中矢礼美 「インドネシア・アンボンにおける世代別アイデンティティの特徴と教育に関する考察」 広島大学国際センター紀要5号, 2015年, pp.34-48
- 中矢礼美 「インドネシアにおける世代別アイデンティティの様相と教育の影響に関する考察 — 東ジャワ州とマルク州の比較から —」 アジア教育学会編『アジア教育』第9巻, 2015年, pp.51-63

深見兼孝 「日本語と朝鮮語における姿勢動詞の対照研究(2)」『ニダバ』第45号,2016年3月, pp.69-78

2. 学会発表

Tsunematsu, Naomi, " When Local Culture in Japan Encounters with Cultural Diversity: Power of Foreign Student Interns for International Promotion of Local Tourism ", 日本比較教育学会第51回大会, 宇都宮大学, 2015年6月14日

恒松直美 「交換留学生によるインターンシップ自己評価 – 地域と協同で挑戦する『国際観光ガイド』–」, 日本総合学会 2015年度春季大会, 広島大学東千田キャンパス, 2015年6月27日

恒松直美 留学生が挑戦する『国際観光ガイド・インターンシップ』– 多文化共生の地域づくりと国際観光振興 –」, 留学生教育学会 第20回年次大会(総会・研究大会), 日本電子専門学校, 2015年8月29日

深見兼孝 「日本語の程度副詞『まったく』の韓国語訳」, 2015年度日本総合学会春季大会, 広島大学(千田キャンパス), 2015年6月27日

深見兼孝 「強調表現に関する日本語と韓国語の対照: 若干の程度副詞をめぐって」, 2015年度韓国日本語学会秋季大会(招聘発表), 電気通信大学校(韓国), 2015年9月19日

3. その他の活動

A. 地域貢献、社会貢献

恒松直美 広島大学「グローバルインターンシッププログラム」(G.ecbo) 運営委員

恒松直美 広島大学附属高等学校スーパーサイエンス・ハイスクール運営指導委員

恒松直美 教育開発国際協力研究センター(CICE)学内容員研究員

中矢礼美 JICA 研修コースリーダー平成27年度 課題別研修「平和教育 – 相互理解の促進をとおして-」, 2015年7月–8月

B. 学会活動

恒松直美 日本総合学会 監事

中川正弘 日本フランス文学フランス語学会 中国・四国支部実行委員
中川正弘 広島大学フランス文学研究会 参与
中矢礼美 日本比較教育学会 常任理事
深見兼孝 西日本言語学会 運営委員
深見兼孝 日本総合学術学会 理事
深見兼孝 韓国学研究会 会長

C. 講演・ワークショップ等

恒松直美 「グローバル社会と私達 - 異文化との接触に備える」, 呉市役所 じぶん投資セミナー「異文化理解講座」第1回, 2015年6月19日, 呉市役所福祉会館

恒松直美 「日本文化理解グループ・ワーク」 広島大学短期交換留学プログラム(HUSA)オリエンテーション, 2015年9月28日

恒松直美 「自分の枠をはずそう!」, 呉市役所 じぶん投資セミナー「異文化理解講座」第2回, 2015年10月23日, 呉市役所つばき会館

恒松直美 「吉舎おもてなしプラン 国際交流行事」 広島県立日彰館高等学校 グローカル人材育成プログラム120(日彰館高校と広島大学短期交換留学プログラム留学生との国際交流会), 2015年11月7日

恒松直美 広島大学附属高校スーパーサイエンス・ハイスクール「科学表現」英語合宿における指導, 2015年11月30日, 広島市国際青年会館

恒松直美 「留学生と地域社会を結ぶ鍵: 多文化共生社会の実現に向けて」 広島大学短期交換留学プログラム(HUSA)「多文化共生の地域作り実践研究グループプロジェクト」中間発表会, 2015年12月21日

中矢礼美 広島県立広島中高等学校校内研修会「グローバル人材とは」, 2015年6月

中矢礼美 広島県立広島高等学校「グローバル問題研究夏季集中講座」, 2015年8月

中矢礼美 広島県立広島高等学校「グローバル・リーダー研究講演会」, 2015年10月